

## 6月はMG（重症筋無力症）啓発月間 困難を乗り越え自分らしく生きる患者さんに密着した ドキュメンタリー動画を公開

アルジェニクスジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：後藤 太郎、以下アルジェニクスジャパン）は、6月の「重症筋無力症（myasthenia gravis：以下MG）」啓発月間に合わせて、患者さんのドキュメンタリー動画「MGと生きる私 ～向き合ってきた現実と、その先にあるもの～」をアルジェニクスジャパン YouTube チャンネルで公開します。

公式 YouTube チャンネル：<https://www.youtube.com/@argenxjapan>



MG と生きる私 ～向き合ってきた現実と、その先にあるもの～

### ■「怠けている」という誤解。見えづらい症状がもたらす社会的な負担。

MGは神経と筋肉をつなぐ部分に障害が起こることで生じる自己免疫疾患です。主な症状としては、力が入りにくい、疲れやすいなどですが、症状があらわれる身体の部位や症状の程度には個人差があります。また、日によって、さらに1日の中でも時間によって体調が変化することがあるため、「怠けている」「さぼっている」などと周囲から誤解されることもあります。このようにMGの患者さんは、疾患による身体的な負担はもちろんの事、疾患が周りの方々に理解してもらえない、共感してもらえない、就労や社会参加の機会を損失してしまうことがあるなど、社会的な負担に悩むこともあります。当社では、MGについて知っていただき、理解が社会に広がることで、患者さんやそのご家族の方々が少しでも過ごしやす

い社会となることを願い、MG の啓発活動を実施しています。特に 6 月の MG 啓発月間を契機として、当社は多くの方々に MG への理解を深めていただくことを目的に、「知ることから始めよう。MG のこと。」をスローガンとした啓発活動を 2023 年から実施しています。

### ■動画の見どころ：人生の節目と向き合い、前を向いて歩む姿を紹介

ドキュメンタリー動画では高校 2 年生で MG と診断された患者さんに密着しました。就学、結婚、出産など、MG と生きる人生の大きな節目でさまざまな困難と向き合いながらも、現在はハンドメイドのアクセサリーを世界中のファンに届けるアクセサリー作家として、やりがいをもって活動しています。家族や仲間のさりげない、そして温かな支えを受けながら、前向きに病気とともに生きる日常を伝えます。

### ドキュメンタリー動画の概要

タイトル：「MG と生きる私 ～向き合ってきた現実と、その先にあるもの～」

公開先：アルジェニクスジャパン公式 YouTube チャンネル

<https://youtu.be/-5NLt3F7uFI>

<これまでに公開した MG 患者さんのドキュメンタリー動画>

タイトル：「MG と生きる私 ～前編～」 「MG と生きる私 ～後編～」

難病治療が難しい医療過疎地であっても「住み慣れた地で自分らしい暮らしがしたい」と、北海道で夫と息子と暮らす患者さんに密着しています。

※重症筋無力症啓発月間（MG Awareness Month）は、米国重症筋無力症財団（Myasthenia Gravis Foundation of America：MGFA）が提唱したものです。毎年 6 月の重症筋無力症啓発月間には、MG と共に暮らしている人々が直面している課題を広く社会に理解してもらうことを目的に、世界的に啓発活動が行われています。

### 重症筋無力症について

重症筋無力症(MG)は、IgG 自己抗体が神経と筋肉の間の伝達を妨害することで、消耗性で生命を脅かす可能性のある筋力低下を引き起こす稀な慢性自己免疫疾患です。全身の筋力低下、易疲労性が出現し、特に眼瞼下垂、複視などの眼の症状をおこしやすいことが特徴です。眼の症状だけの場合は眼筋型、全身の症状があるものを全身型とよんでいます<sup>1</sup>。話したり、飲み込んだり、動いたりすることが困難になる場合もあります。重症化すると呼吸筋の麻痺をおこし、呼吸困難を来すこともあります<sup>2</sup>。

2018 年の全国疫学調査によると、日本国内の MG 患者数は約 29,000 人と推定されています<sup>2</sup>。日本では眼筋型 MG が全体の約 20%と報告されており<sup>3,4</sup>、国内の全身型 MG の患者数は全体の 80%程度、18,000～24,000 人程度と推定されています。重症筋無力症は厚生労働省より難病指定を受けています（指定難病 11）。

#### 参考文献：

1. 仲 真人、伊藤和弘：聖路加看護大学紀要, 2009, 35, 37-44
2. 公益財団法人難病医学研究財団 難病情報センター
3. Murai H, et al:Clin Exp Neuroimmunol. 2014;5: 84-91
4. Suzuki S, et al:BMC Neurol. 2014;14:142

#### アルジェニクスジャパン株式会社について

アルジェニクスジャパン株式会社は、ベルギー・ゲント市に本拠を置くアルジェニクス BV の日本法人です。アルジェニクスは免疫領域に特化したグローバル医薬品企業で、深刻な自己免疫疾患に苦しむ人々の生活の向上に貢献することに取り組んでいます。独自の免疫学イノベーションプログラム（IIP）を介して主要な学術研究者らと協業し、免疫学領域における画期的な発見から世界的な新規抗体医薬品ポートフォリオを生み出しています。

アルジェニクスは、米国、日本、イスラエル、EU、英国、カナダ、スイス、中国等で初めて承認された抗胎児性 Fc 受容体（FcRn）抗体フラグメント製剤を開発および販売して参りました。当社は更に、多くの重篤な自己免疫疾患に対してエフガルチギモドを評価していることに加え、注力している治療領域で、複数の新しい品目について早期の研究開発を進めております。

アルジェニクスジャパンの詳細については、[www.argenx.jp](http://www.argenx.jp) をご覧ください。

#### 本件に関するお問い合わせ先

アルジェニクスジャパン株式会社 広報担当

TEL：080-1909-3114 E-mail：[jp.communication@argenx.com](mailto:jp.communication@argenx.com)